

平成 25 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492200116	事業の開始年月日	平成19年1月1日
		指定年月日	平成19年1月1日
法人名	安西商事株式会社		
事業所名	長後いきいき広場		
所在地	(〒252-0807)		
	神奈川県藤沢市下土棚 478-5		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	25名
		通い定員	15名
		宿泊定員	9名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	名
		工外数	工外
自己評価作成日	平成25年10月20日	評価結果 市町村受理日	平成26年3月18日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

安心と思いやりをモットーに、地域社会と連携し、良質で信頼される
介護サービスを提供することで、その人らしい生活が出来る様
支援して行きます。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年11月15日	評価機関 評価決定日	平成26年3月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

この事業所は小田急線・長後駅から徒歩1分ほどの場所にある。同建物の1階に小児科・内科、2階が当事業所、3階は法人代表者宅となっている。元は産婦人科病棟だったため、9室ある宿泊室は、ベッドが2台入る広さがある。リビングフロアもゆったりとした広さで、リビング内の台所部分とフロア入口に扉がなく仕切られていないことが、よりいっそう開放感を増している。リビングの各テーブルや廊下などには、季節の花が飾られ、明るい空間となっている。廊下の両サイド壁面には、油絵などの絵画が美術館のように多数、飾られている。

【医療連携と看取りに対する積極的な姿勢】

管理者と職員2名が看護師、また介護職員も元は看護助手を務めていた方が多く、インシュリン、HOT（在宅酸素療法）など医療依存度の高い利用者にも対応している。また寝たきりで胃ろうだった利用者へ、経口摂取のリハビリを行い、胃ろうを除去出来るまでに改善した実績もある。階下には法人代表者が経営する医院があり、上階に居住しているため、夜間などの緊急時にも協力を得られる体制となっている。ターミナルケアに関しても、「関わりを持った方を、最後までお世話したい」との思いで、積極的に取り組んでいる。これまでに3名の方を看取っている。

【認知症についての啓蒙活動】

管理者はキャラバンメイトのボランティアグループに参加し、認知症サポーター養成講座の講師としても、銀行やスーパー、自治会などで講座を開き、地域住民に広く認知症の方についての理解をしてもらえるよう努力をしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	長後いきいき広場
ユニット名	

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	主人公は利用者であり、利用者のニーズに合った柔軟な対応が出来る様実践しています。	事業所理念は平成19年の開所時に作成されたものである。「理念」と「目標」は、廊下に掲示されており、一昨年からは職員証の裏面にも印刷し、職員は常に携帯している。毎朝の朝礼や申し送り時にも確認している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	誕生会等行事には、ボランティア団体の方々が気軽に訪問して下さり、自分たちのやっている事を披露して下さっています。	自治会に加入し「長後祭り」などに利用者と参加している。地域の防災訓練には職員と管理者が参加している。楽器演奏・マジック・フラダンス・南京玉簾などのボランティアが隔月ごとに来訪している。近隣のお年寄りが遊びに来ることもある。こども110番の場所になっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、キャラバンメイトとして、認知症サポーター養成講座を地域の方達に講師として講座を開催しています。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しています。 認知症高齢者の実態や家族の話聞き、施設の必要性について理解していただいています。	今年5月から、2か月に1度の頻度で開催している。出席者は自治会長、民生委員、老人会の元会長、地域包括支援センター職員、家族代表などである。状況報告、防災関係、レクの実施状態等について話し合われている。民生委員からは、地域の高齢者の状況などの話がでている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例や判断に苦慮した時など、相談・援助・助言をいただいております。	藤沢市にはFAXで空き情報を報告し、運営推進会議の議事録は開催月には必ず持参か郵送している。市からは新規事業所の紹介などがある。2か月毎に開催される「小規模多機能連絡会」で他事業所の管理者やケアマネジャー、市の担当者をお互いに交え、地域の困難事例などの情報交換を行っている。現在、交換研修会についての話し合いを進めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝のミーティングでスタッフに理解させています。ユニットの入口は、やむを得ず施錠をしています。	「身体拘束廃止宣言」を廊下に掲示し、職員にはミーティングでスピーチロックなどを事例に話している。各居室からベランダに出られる掃出し窓は開放している。事業所入口は、すぐ階段であるため、家族の了解を得て施錠しているが、人の出入りは確認しやすい。夜間は防犯のため、セキュリティー会社により、ビル全体が施錠される。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言動・行動に対して虐待の意味を理解しております。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時等その都度機会があるごとに、制度のことを説明し、理解する様になっています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にきちんと説明し、理解していただいております。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者毎に、家族との連絡帳で家族の声を聴き対応しています。	家族とは送迎時や連絡ノート、電話などで意見を聞いている。毎月発行する「長後いきいき広場通信」で利用時の様子を伝えている。お誕生日会には利用者の家族も招待し、コミュニケーションを心がけている。家族は、多い方は毎日、少ない方も月一回は来訪している。散歩への要望が出され、週2回ほど近所の公園や駅前などに行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営状況は、その都度説明しています。意見や提案も朝礼時におこなっている。	昨年度のステップアップ項目となっていた「職員一同が会する全体会議」は外部評価後、迅速に検討しその後、全体会議を2か月毎に行っている。職員の意見から掃除回数を増やすなど、様々な面で意見を取り入れている。会議以外でも、毎朝のミーティングを重視し、30分以上の時間をかけて行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回代表者との運営会議があり、スタッフが気持ちよく働ける様提言し受け入れていただいております。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎朝のミーティングを30分位とり、その中で、その都度の事例を取り上げている。又研修は順番で受けるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小規模多機能連絡会への参加をしております。又ボランティア団体に加盟しキャラバンメイトとしても、参加させていただいております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族の話を良く聞き、課題を抽出し不安を除けるようにしています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何に一番困っているか家族の話をもとに良くお聞きし、不安を除ける様にしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、優先順位を見極めそれに付随している課題に対し、解決して行く様にしています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線で笑い、楽しみ共に暮らして行ける様にしています。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族と話し合い、本人の気持ち、家族の思いを大切にしながら、本人のできない事を支援して行けるようにしております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたでも、気安く出入り出来る様にしております。	利用者の友人・知人などの面会はおおむね1か月半に1度の頻度である。来訪者はいつでも快く迎えている。送迎の途中に個人の馴染みの店に立ち寄ることもある。近所の和菓子屋や洋服屋などに買い物へ行く支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じ、利用者同士助け合い、声を掛け合っています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の精神的不安定な状態を支えて居ります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>家族の状況を把握し、柔軟に対応しています。</p>	<p>散歩や入浴時など、利用者がゆったりした気分の時に一対一で話を聞いている。家族から話を聞くこともある。うまく意志を表現できない方には、様子の変化や身体の反応を見て、思いを汲み取っている。夜勤専門の職員も含め、職員間で情報を共有している。</p>		
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>アセスメントにて過去の暮らし方、生活環境等を把握し対応しています。</p>			
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>できない事を支援し、出来る事は本人が出来る様支援しています。</p>			
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>作成にあたっては出来るだけ家族と話し合い、これからの方向性を聞き利用者のレベルアップにつなげています。</p>	<p>家族、看護師を交え、サービス担当者会議を行い、ケアプランを作成している。家族が会議に参加できないときは、来訪時などに意見を聞いている。職員には毎朝のミーティング時に、ケアプランについても意見を聞いている。モニタリングを基に通常は、短期3か月、長期6か月毎に見直しを行っている。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子は個別記録に記入し、毎朝のミーティングでの申し送り、情報の共有を行い、計画書の見直しに活かしています。</p>			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	息子さんが、早朝送って来られ夕食まで召し上がり、息子さんが連れて帰られる方もおります。他にも夕食を召し上がり帰られる方も多くいらっしゃいます。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お誕生会等ボランティアの方達の訪問や近隣の方達の訪問もあります。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	家族や本人が望む様支援しています。	かかりつけ医には、基本的に家族が対応している。状況により1階のクリニックで対応することもある。医療情報を詳しく知りたい場合には、職員が家族に同行して、かかりつけ医と話すこともある。泊り利用で、訪問歯科や訪問マッサージを利用する方もいる。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	管理者が看護師であり、他にも1名居ります。インシュリン・HOT導入の方の対応もしております。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師の説明があるときは病院まで出向き立ち合い、退院時の指導を受け関係を築いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の対応については、早い段階から家族と話し合っております。ターミナルに向けての相談にも取り組んでおります。</p>	<p>職員に医療関係者が多く、希望があれば看取りを行う方針である。利用開始時に指針をもとに説明し、重度化した場合には、様子を見て「同意書」を交わしている。今までに3名の方を看取り、現在も2名の方を支援している。法人代表も医師として看取りに協力している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>常に、緊急時に対応出来る様、連絡を取り合い実践しています。</p>	/	/
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>訓練は、10月に消防署の指導のもとに実施予定。水や食品の備蓄も備えております。</p>	<p>6月の訓練は消防署立ち会いで、通報と避難誘導訓練、消火器やタンカの使い方を行った。利用者も参加している。非常時には、近隣の方や自治会長、民生委員が駆けつけてくれることになっている。11月には夜間想定訓練を予定している。災害時の帰宅困難者の受け入れを想定して、水10ケース、米50kgなどを備蓄している。AEDの有資格者もいる。</p>	<p>耐震構造の建物で警備会社のセキュリティーもあり、有事の際は近隣の協力を得られる関係が築かれています。次のステップとして、次回予定されている夜間想定訓練を、夜勤スタッフ参加で実施されることを期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、失礼のない言葉かけを心掛けています。	家族から聞いた生活歴を基に、個人に合わせた対応や呼びかけをしている。職員には特に送迎時の会話など、利用者のプライバシーに配慮するよう注意している。記録はイニシャルで記入し、個人ファイルは、事務所の書庫で管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会の飾りつけや進行等や乾杯の音頭を取っていただいております。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりした時間を過ごし、ゲームをしたりカラオケを楽しんだりしておられます。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容や入浴などで清潔を保っている。デイサービスに見えるときは、おめかしをして来ています。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、筋取り等行っていただいております。	食材は週に2回、買い出しに行っている。調理専門の職員3名が、旬の野菜を取り入れ、家庭的な献立を考えている。利用者の好きな刺身や赤飯、お寿司を出すこともある。行事食もすべて手作りで、糖尿病などの方にも配慮している。食事をおいしく食べられるよう、口腔体操を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分チェックは記録しており、その人に合わせた形態にし、おかゆにしたり、ミキサーをかけたりしております。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず、口腔ケアし、その人に合わせたケアをしています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その人に合わせ、いきなりオムツではなく排泄パターンを把握し、時間でトイレ誘導したり、声掛けし自立に向けたケアをしています。	排泄パターンは「個人日誌」と「排便チェック表」に分けて記録管理している。できるかぎり自分で行えるよう、声かけや見守りで排泄の支援を行っている。夜間は睡眠を重視しオムツを使用している方にも、日中はハビリパンツにして、定期誘導するなど自立の支援に努めている。家族とは連絡ノートで情報を共有している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンをチェックし食事作りには、気配りをし、工夫しております。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その人に合わせた入浴を楽しんでいただいております。	午前中に週に2回の入浴が基本だが、臨機応変に対応している。以前は入浴が嫌いな方が多かったが、声かけなどを工夫して支援した結果、習慣となり今は入浴したがない方はいない。現在は使用している方はいないが、リフト付きの浴槽もある。ゆずや入浴剤などで季節の湯を楽しめるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に一人一人の状態を気にかけて声掛けをして居ります。すべてベッドではなく、畳に布団を敷き休んでいただいたりしています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人服用している薬のしおりはまとめており、スタッフ一同周知しています。薬のファイルはいつでも目が通せる様にしております。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的にカラオケ、ゲーム等で楽しんでおられます。近所の公園に散歩に行ったり、花を見に行ったりしています。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のお祭りに参加しております。	天気のよい日に、週に2回くらいの頻度で、駅前や近所の公園などに散歩に行っている。広いペランダで日光浴をすることもある。10月には電車を利用して、外食に出かけた。今後も定期的に外出行事を企画していく予定である。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常にお金をもっている方もいらっしゃいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もおります。又手紙等は自宅を出しているようです。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	長い廊下には、絵画をかけ、ソファでは居眠りをして、在宅の延長を楽しんでいる方もいます。	長くて広い廊下では、利用者が休みながら絵画を観たり、ソファでくつろいだりしていた。フロアには各テーブルに、季節感がある赤いポインセチアが飾られ、ビンゴやゲームなどが楽しめるカラオケ機器がある。訪問時にも利用者は、カラオケを順番に楽しんでいた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、気持ちの合う利用者同士声掛けし、カードゲームを楽しんだり、廊下を行ったり来たり、会話も弾んでおります。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	時には体を横にしたい方もあるので、自由とし昼寝などしてられます。	泊りの部屋は9部屋ある。以前は産婦人科だったこともあり、居室内は掃き出し窓からベランダに出られ、明るく広い。泊り時には自分のタオルケットや毛布を持ち込む方が多い。泊り利用の方は、TVや衣類ケース、小物などを持ち込んでいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの利用など、自立した生活が出来るようになっていく。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 長後いきいき広場

作成日 平成26年3月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	有事の際の避難想定 の訓練を避難ステーション 参加で実施すること。	全職員及び避難 ステーション参加で実施し 迅速に目的を達成する ための方法を身につけること。	平成25年1/7に実施 平成26年3/5に避難 想定訓練を実施する 予定にしている。など	
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。